

2018年5月6日(日) シリーズ「キリストにある命」 | Series “Alive in Christ” キリストにある命 | Alive in Christ

異教の文化の中でクリスチヤンとしてやっていくのは簡単なことではありません。周りからのプレッシャーの中で人々を恐れて、クリスチヤンとしてのアイデンティティを失い、いつの間にか周りに染まってしまうこともあるでしょう。そんな中、古い生き方から離れて、新しい生き方を追い求めるよう勧めるために、エペソの手紙は書かれました（エペソ 4:1;17）。でも、そのためには、動機づけが必要です。何を知る必要があるでしょうか。

I. 聖書を読んでみよう

エペソ 2:1-10

II. 話し合ってみよう Discussion Question

- 1) 2:1を見てみましょう。古い生き方が魅力的に見える時、私たちは、そこに命があるようにどこかで思います。でも、2:1からは、何がわかりますか。
- 2) 罪過と罪の中の生き方は、世の中に流され、また、女神アルテミスのご加護を求めるような生き方です(2 節)。でも、その奥底にあるのは、自分の肉（自分の利益を追求する考え方）の思いに縛られる生き方(3 節)でした。パウロは、この生き方が、「私たちもみな」持っている考え方だと言っていますが、私たちの生活の中にも入り込んでいるかもしれません。どういうところで自分中心の考え方になってしまっていることがあるでしょうか。
- 3) なぜ、世の中の考えに合わせ、自分中心の生き方をしたいと思うのでしょうか。何を恐れているのでしょうか。何をもとめているのでしょうか。
- 4) 私たちが心の奥で求めている「いのち」あふれる生き方は、自分の肉の願いに従っていっても手に入ることはありません。申命記 30:19-20を読んでみましょう。「いのち」はどこで見つかるものでしょうか。
- 5) 死んでいた私たちを、神様はどうしてくれたと言っていますか（2:4-5）。これらがすべて過去形で書かれているということは、どういうことですか。生きているかどうかは私たちの感覚に左右されるものでしょうか。
- 6) 6 節と 10 節を見てみましょう。キリストは天では神の右の座についておられます。私たちは、単に生きているだけでなく、キリストと共に神の右の座にすわらせてもらいます。また、そこで、私たちは役割が与えられています（10 節）。心の空虚をみたすかのように肉を追い求めていた私たちにとって、神の右につかせていただいているというのは、どんなに大きな励ましでしょうか。
- 7) 2:4-10を見てみましょう。私たちが「死」から「命」にうつされたことの理由は何でしょうか。私たちは、時折、命に従って歩めていない自分に落胆します。でも、ただ恵みによって救われたというのは、どんな励ましになりますか。
- 8) 周りの生き方の「死」と、今与えられている「いのち」と、それが「恵み」によって与えられているものだと知ることは、私たちの生き方を具体的にどう変えていくと思いますか。

